

千葉県感染症発生動向調査情報

2019年 第20週 (5/13-5/19) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	20週	19週	18週	17週
小児科	17	18	18	17
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	27	28	26	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	5/13-5/19	5/6-5/12	4/29-5/5	4/22-4/28	5/6-5/12
			20週	19週	18週	17週	19週
小児科	RSウイルス感染症		0	2	0	1	21
	咽頭結膜熱		8	14	1	4	49
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	61	55	15	58	332
	感染性胃腸炎		107	75	19	99	574
	水痘		5	4	2	4	72
	手足口病		2	0	0	0	24
	伝染性紅斑	○	16	10	0	17	137
	突発性発しん		5	12	1	12	64
	ヘルパンギーナ		1	2	0	0	8
	流行性耳下腺炎		4	3	0	1	13
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		17	9	4	70	110
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	1	0	1	13
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	6

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	70歳代	IGRA検査
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	-	-	-	-

*第20週は、結核5件(72)、梅毒1件(12)、百日咳1件(39)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

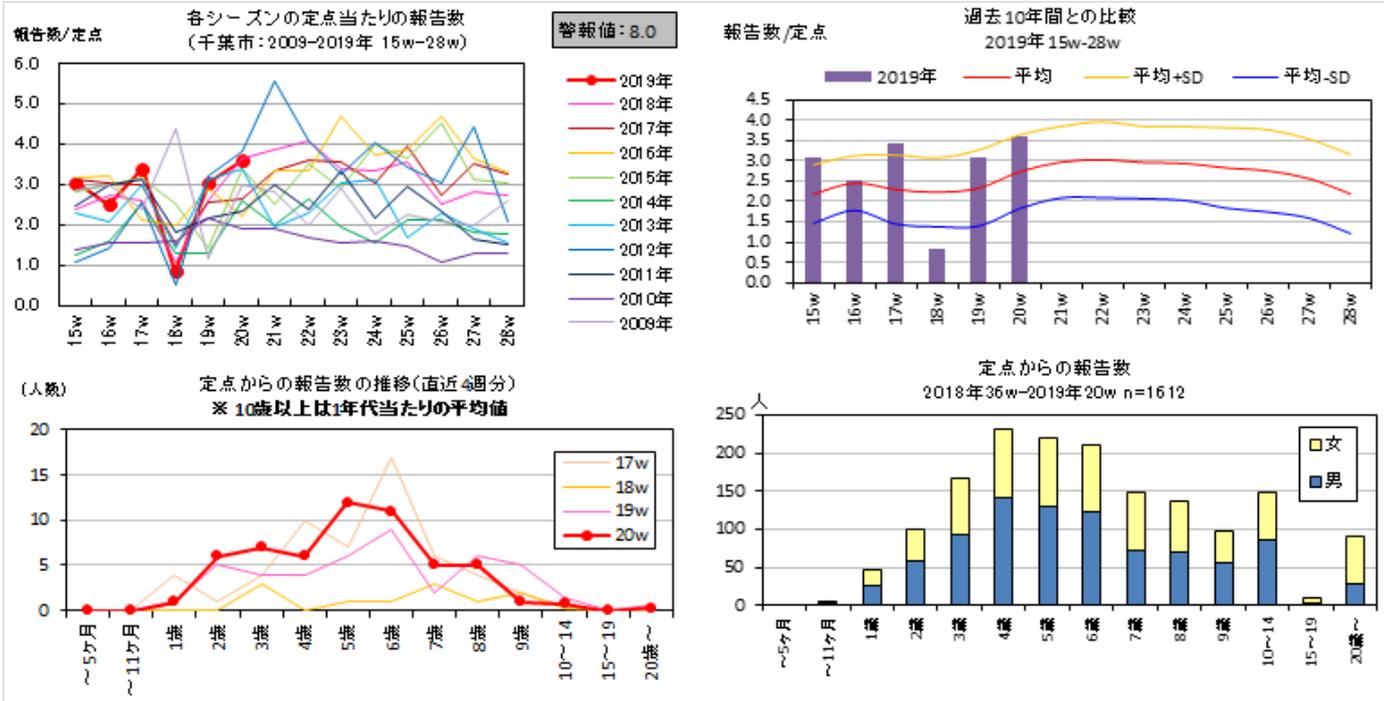
定点当たり報告数 第20週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し3.59となった。過去10年の同時期と比べると多い。
<伝染性紅斑> 前週より増加し0.94となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第19週の定点当たりの報告数は1.89で、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、福井県、宮城県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.46で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第20週は前週より増加し3.59となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(7.0/定点)が最多で、同区の5歳で最も多くなっています。今シーズンである2018年第36週から2019年第20週までの累積報告数は1612件で、性別では男性が55.5%(895名)、女性が44.5%(717名)となっており、年齢階級別では4歳(14.4%:232名)、5歳(13.6%:219名)、6歳(13.1%:211名)の順で多くなっています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第19週の定点当たりの報告数は0.68で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、石川県、富山県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.01で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第20週は前週より増加し0.94となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(2.5/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最も多く、同区の6~11か月、4歳、5歳、7歳及び10歳代前半で発生報告がありました。2019年第1週から第20週までの累積報告数は329件で、性別では男性が54.1%(178名)、女性が45.9%(151名)となっており、年齢階級別では4歳(17.6%:58名)、5歳(17.3%:57名)、6歳(13.4%:44名)の順で多くなっています。

